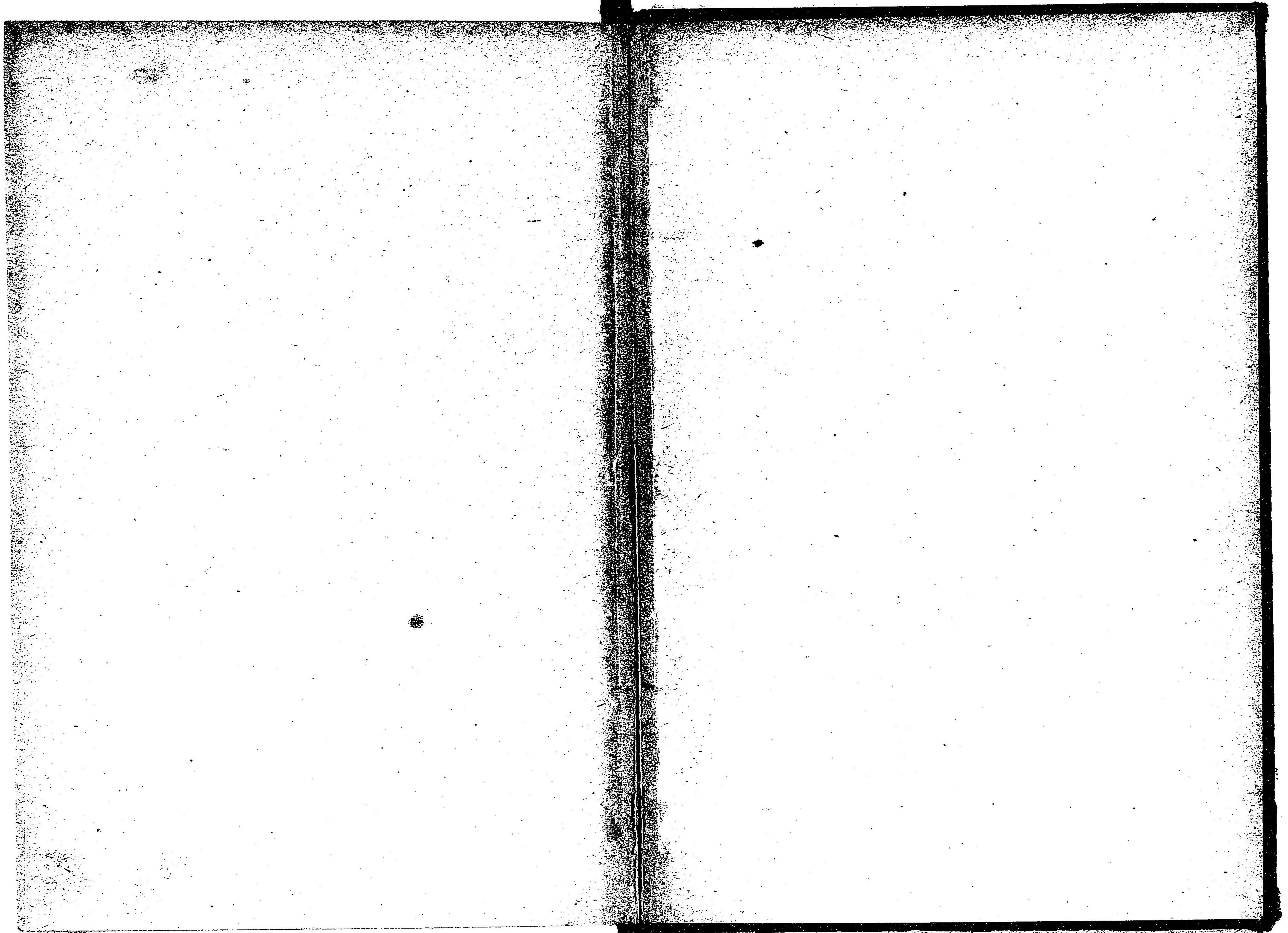


79
648

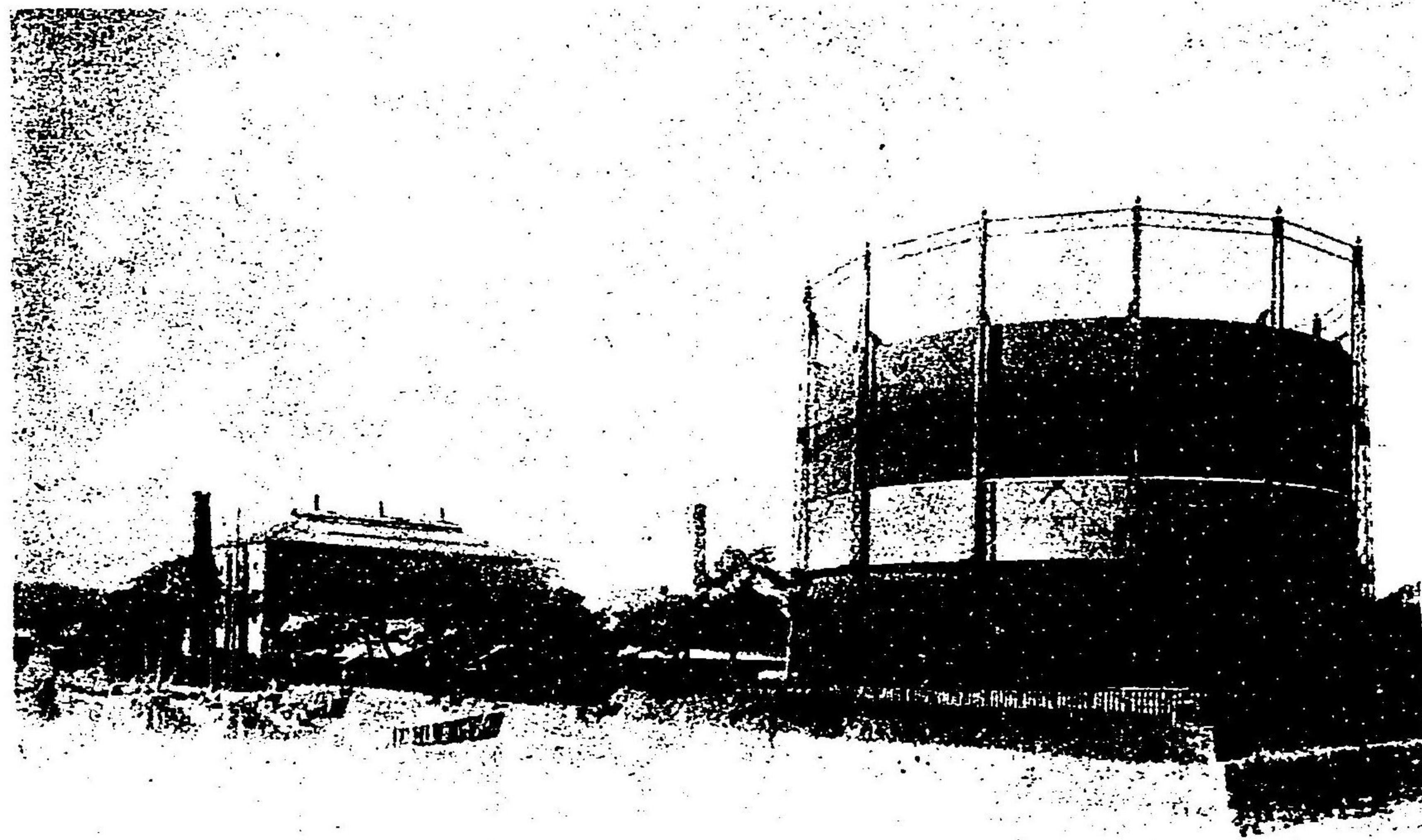
東京瓦斯
株式會社
事業沿革之概要

1870.1





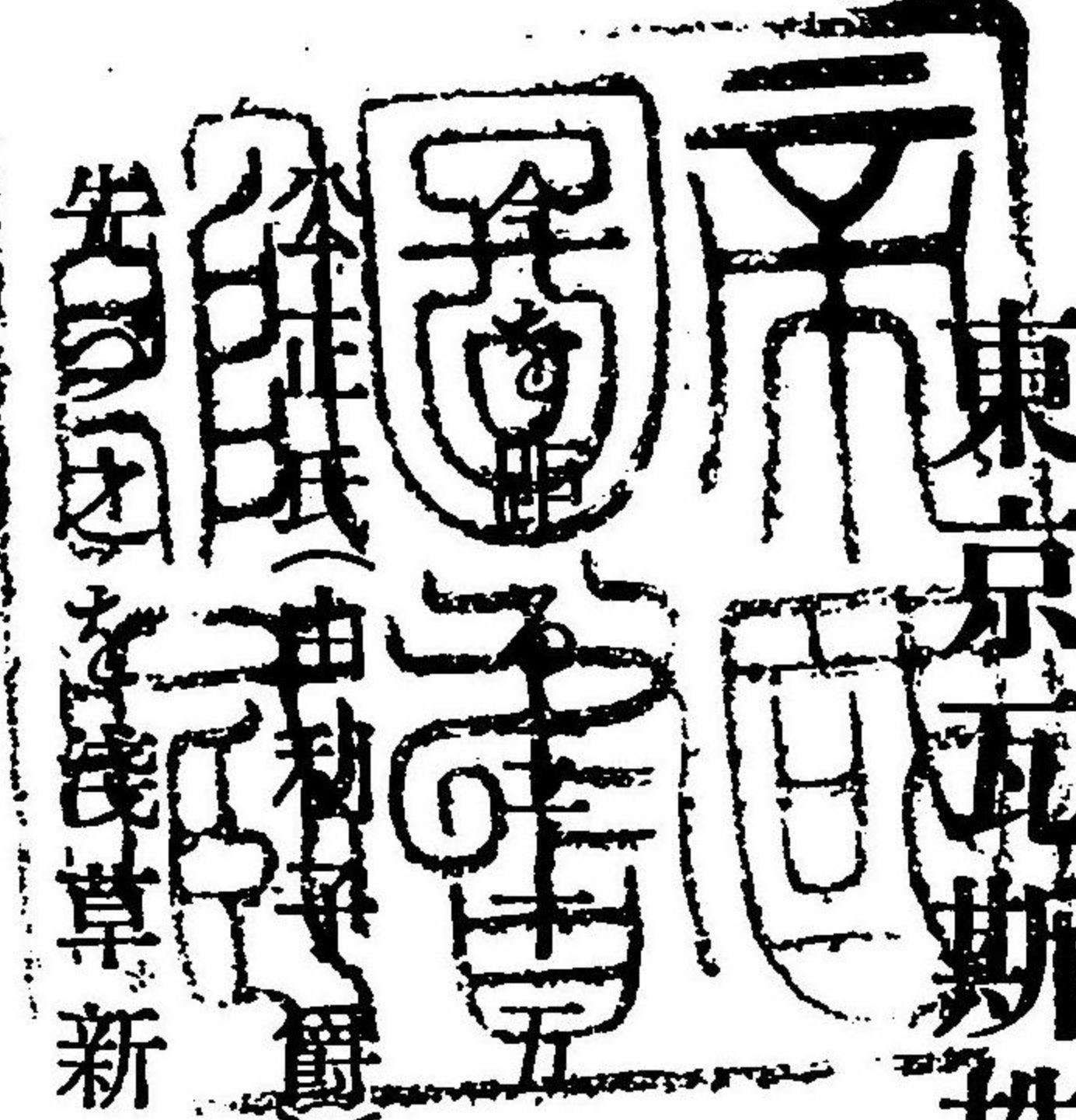
社會式株斯瓦京東
地番三十二目丁三町錦區田市京東



所造製一第社會式株斯瓦京東
地番三町崎濱區芝市京東

東京瓦斯株式會社事業沿革の概要

東京瓦斯株式會社 寄贈本



年前明治四年二月時の東京府權知事由利
 本正氏(由利正爵)は瓦斯燈を市内に建設するの一步として
 先づ(先づ)を淺草新吉原廓内に試用せんとし市の共有金を支
 出し高島嘉右衛門氏をして新に器械を倫敦より購入せし
 め同五年七月器械は到達せしも業嶄新に屬し急遽に着手
 すること能はず幾ならずして由利氏去り大久保一翁氏(大
 久保子爵)之に代り船載の器械空しく深川清住町仙臺倉屋
 敷今の淺野セメント工場に堆積せらるゝこと三年に及べ

り市の共有金とは市民非常救助に充つる目的を以て老中松平定信が制定したる寛政町法に基き蓄積したる所謂七歩積金にして因襲怠らず明治の初年東京府廳の管轄に歸し町會所之を經理し金額六十一萬八千兩其他貯藏米穀所有地所家屋の代價數十萬兩に上りたり此共有金は明治五年三月町會所廢せらるゝに及び一旦東京府廳の手に移りたるが同年五月東京營繕會議所起るに及び更に其管理に歸し専ら市中の道路橋梁を營繕するの原資に供せられたり其後同年九月に至り營繕會議所は其組織を改正して東京會議所と更稱し市の共有金を以て養育院其他の用途にも支出することゝなりたり

當時高島嘉右衛門氏は横濱瓦斯會社を興し之が社長と爲り大に其便益に鑑み東京府廳が購入したる器械を以て新橋日本橋間に瓦斯街燈建設を出願し東京會議所も此器械を利用して市内樞要の地へ瓦斯街燈五百基の建設を決議し會議所は遂に知事の認可を得明治六年六月佛國技師ベレゲレン氏を雇入れ工を董さしむ此時に當り松本金兵衛氏(新吉原金瓶大黒主人)は礦油燈を新製して其効用遙かに瓦斯燈に優れるを論じ西村勝郎氏(西村勝三氏の弟)は現華燈(礦油燈にして形狀蓮花に類す)の効用は毫も礦油燈に劣らずして經費は却て廉なりと説き各之が短長を争ひて其建設を會議所に申請したるを以て會議所は實檢の爲め此

二燈と瓦斯燈と三者鼎立せしめ各種五百基宛を建設することに決し瓦斯焚爐を木挽町八丁目元工部省敷地に設け十二月二十六日芝濱崎町三番地地所三千四百二十三坪を瓦斯工場敷地として借り受け焚爐を此地に移し高島嘉右衛門氏建築の設計を受負ひ明治七年一月京橋以南瓦斯街燈の建設に着手し其十二月十五日試點火を行ひ越へて三日即ち十二月十八日より始めて點火せり其數八十五基是實に東京に於ける瓦斯事業の起原なりとす是より先き八月礦油街燈四十八基を馬喰町通に建設し九月一日より點火し八年十二月に至り現華燈五百基を西村勝郎氏より購入したり當時東京會議所は大に市政の刷新に熱中し近頃

大藏三等出仕を辭して第一國立銀行の總監と爲りたる澁澤榮一氏(澁澤男爵)の善く民情に通曉するを以て會議所總轄を囑託するの決議を爲し知事の認可を得たり實に明治七年十月一日なり澁澤氏の入るや銳意之が整理に當り會議規則を制定し議目を修路修築、瓦斯街燈建築、商法講習所、養育院、墓地取締、會議所所屬金錢出納、付屬地販賣等に分ち行務を庶務、會計、修築、街地、教育の五課とし澁澤氏會頭を以て行務頭取を兼ねたり街燈の制は前述の如く瓦斯燈、礦油燈、現華燈の三種に分ち順次設置し明治八年に至り瓦斯燈三百五十基、礦油燈四百十八基に及びたり明治九年一月會議所は其行務科の事業を擧げて悉皆之を府廳に引渡し次

に其管理の資金は市民共有金たるを以て府廳をして之を管理せしめ會議所は其收支の決議にのみ與るべしと議決し即ち五月二十五日を以て行務と原資金とを東京府廳に引渡したり此時より瓦斯事務は新に府廳内に一局を置き之を管理せしむることとなり澁澤氏府廳よりの囑託を以て其事務長と爲り西村勝三氏之に副たり是れ實に本會社の前身なりとす同時に礦油現華の兩燈は將來の得失に於て充分の成算なきものと認められ之を廢止し瓦斯局其殘務を繼承し礦油燈は十二月二十二日全く點火を止め現華燈は器械を準備せしのみに止まり建設を了せずして廢せられたり瓦斯事業創設より明治九年五月に至る四十六ヶ

月間に礦油現華兩種に支出したる四萬四千六百八十八圓餘を除き瓦斯にのみ支出したる金額は總額十七萬千五百五十六圓六十五錢八厘にして點火料として徵收したるは六千三百十圓九十七錢差引十六萬五千二百四十五圓六十八錢八厘は實に共有金よりの支出に係る街燈點火料は當初會議所各區戸長と協議し毎月費額の折半を沿道地主に賦課せしが苦情多くして創業より八年六月までの收入僅かに一千百八十九圓餘に過ぎず到底維持の途立たざるを慮り賦課の良法を得るまで府税を以て支辨すべきことに決したり幾もなく府會起り瓦斯街燈費として之を地方經濟に移したり當時市民生計の程度低きと瓦斯燈火の効用

世人に熟知せられざるにより、需用の範圍極めて狭少にして街燈三百五十基を除き家内に引用したる容量は明治八年三月に於て二萬五千五百二十七立方呎同九年は一ヶ月五萬八千八百八十五立方呎同十年は一ヶ月十一萬八千八百九十六立方呎を算するに過ぎずして同年十二月に於ける需用者の數僅かに十九戸に止まり消費高の最も多きは工部大學校、驛遞局、日報社等の一ヶ月各三萬立方呎内外にして火口の總數も六百三十七個を出でざりし明治十年三月瓦斯製造器械(一ヶ月二百五十萬立方呎の製造力を有する)増築案を決し四萬三千圓を支出し技師ベンゲレン氏を英國に派遣し器械を購入せしめ翌年工事成りベンゲレン氏を解雇し綾部平輔氏

をして代りて技術の事を行はしむ明治十二年には需用者の數八十八戸火口の數千百九十二個に増加し明治十四年には街燈四十四基を増加し需用者の數二百二十二戸に上りたり是より先き府會議員中共有金は素と備荒儲蓄の積立金に成り瓦斯事業經營に許多の金額を流用するは其本旨に反するの說を爲し賣却の議屢々會議に上りたり此年七月二十六日區部會に於て十四年度瓦斯局收支豫算を議するに當り端なく本局賣却の說再燃して公告の上購買希望者を募り價格條件等は府廳に申出づべきの決議を爲したり蓋し瓦斯局の事業は其實營利を目的とするものにして府廳直轄の下に之を經營せしむるは其當を得たるもの

にあらず寧ろ之を私設事業として經營せしむるに如かずと云ふに在り此時に當り電氣燈事業大に歐米に喧傳せられて衆口皆其利便を説くの際之を高價に賣却するは固より不可能の事にして而かも區部會は却て其維持の困難を思ひ縱令低價なりとも其賣却を斷行せんと欲するの意ありしなり而して民間有力者中亦此機會を利用して廉價に之を譲り受けんとし私に澁澤氏に其賣却を勸むる者ありしも氏固く執て聽かず曰く曩に會議所が共有金を支出して瓦斯事業を經營したるは將來の有望を確信したるが爲めなり今や事業尙ほ創始に屬し百事未だ其緒に就かざるの際に當り強て之を賣却する時は既に注入したる資金を

充分回收するを得ずして爲めに市民の損失を醸すの恐あり若かず今後數年を持續し殖益相當の域に進むを待て徐に之を賣却するの計を爲さんにはと依て區部會に説く所あり區部會亦之を是なりとして爲めに賣却の實行を延期するに決す爾來澁澤瓦斯局長(明治十二年七月瓦斯局の職制を定め事務長を廢して局長を置く)は銳意益々業務の整備を圖り瓦斯事業年々發達を加へ時機漸く茲に熟したるを以て遂に明治十八年三月に至り瓦斯局公賣の案を具して之を知事芳川顯正氏(芳川子爵)に陳情したり其要に曰く往年本局を賣却するに關しては既に區部會の決議となりしも當時之を決行せば注入資本の半額をも得る能わざる

の状況なりしを以て之が實施を見るに及ばざりしと雖も
今や本局の殖益は既に相當の域に進み現下之を處分する
も決して從來共有金より支出したる資金の回收を得るに
難からず殊に目下本局の状態は法制に束縛せられ徒に繁
文褥禮に流れ業務の擴張を謀らんとするも遽に之を處置
すること能はずして却て機宜を誤るの虞あるを以て今日
之を公賣して民業に移すは本事業を伸張せしむる適法の
措置なりと抑も瓦斯事業創設以來明治十八年に至るまで
共有金より支出したる金額は六十二萬五千圓に上りたり
と雖も毎季純益金を以て辨濟し未濟の額は二十一萬八千
九百餘圓に過ぎざりしを以て芳川知事は之を諒とし府會

の議に付し二十六萬九千圓にて賣却することを決議し九
月二十一日渡邊知事(洪基)は瓦斯局拂受人總代澁澤榮一、藤
本精一兩氏に對して命令條目を交付し尋で兩氏は府廳官
吏と會見して瓦斯局授受の手續を了したり是實に明治十
八年十月一日なり

爰に於て瓦斯局拂受人は株金二十七萬圓を以て東京瓦斯
會社を創立し本社を芝濱崎町に置き澁澤、藤本兩氏及び淺
野總一郎、須藤時一郎、大倉喜八郎氏等委員に當選し互選を
以て澁澤氏委員長藤本氏検査掛と爲り笹瀬元明氏をして
支配人の事を行はしむ會社成立の當時に於ける需用者の
數三百四十三戸、燈數六千六百七十八個、街燈四百基、瓦斯管

延長十一哩六十二鎖一日の瓦斯需用高平均七萬千五十五立方呎にして今日より之を觀れば霄壤啻ならずと雖も當時に在ては實に機關の全力を殫せしなり明治十八年十二月検査掛藤本精一氏病死し綾部平輔氏技術長と爲る明治十九年一月十五日株主總會に於て渡部溫氏補缺委員に當選し須藤時一郎氏検査掛と爲る同月二十四日株主總會に於て資本金八萬圓を増加して三十五萬圓と爲す明治二十年二月技術長綾部平輔氏罷め工學士所谷英敏氏之に代り明治二十一年二月技術長所谷英敏氏病死し工學士中川五郎吉氏技術の事を行ふ明治二十二年二月委員大倉喜八郎氏辭任し株主總會に於て西園寺公成氏當選其缺を補ひ中

川五郎吉氏技術長と爲る七月四日芝濱崎町工場に機械を増設す明治二十五年七月二十四日株主總會に於て神田川以北の地方へ瓦斯製造所を増設することに決し十一月十八日北豊島郡南千住町大字地方橋場へ工場設置を出願し十二月十日許可を得翌二十六年十一月工事落成したり明治二十七年一月二十一日改正定款の實施に依り株主總會に於て役員の選舉を行ひ澁澤榮一、渡部溫、須藤時一郎の三氏取締役に西園寺公成、淺野總一郎の兩氏監査役に當選し互選を以て澁澤氏取締役會長と爲る七月二十二日株主總會に於て資本金十七萬五千圓を増加す十一月營業規則を定め製造方、街燈方、書記係、計算方、出納方、物品係、雜務係の分

課を設け事務を分掌せしむ明治二十九年七月七日深川猿江町へ工場設置を出願す同月十二日更に株主總會に於て資本金五十二萬五千圓を増し十一月二十二日株主總會に於て定款を改正し本社を神田錦町三丁目に置き第一製造所(工學士内藤游氏現任所長たり)を芝濱崎町に第二製造所(工學士水田政吉氏現任所長たり)を南千住町に第三製造所(工學士上田太吉氏現任所長たり)を深川猿江町に置くことに決す明治三十年二月十六日曩に出願したる深川猿江町の工場設置を許可せらる七月十四日株主總會に於て定款を改正し取締役二名監査役一名増員を決議し其九月十五日の株主總會に於て笹瀨元明、大橋新太郎兩氏取締役に渡邊

福三郎氏監査役に當選し取締役須藤時一郎氏互選を以て専務取締役と爲り笹瀨氏取締役に以て支配人を兼ね澁澤取締役の取締役會長たる故の如し此月十八日本社を神田區錦町三丁目廿三番地に移す明治三十一年一月十七日株主總會に於て資本金三十五萬圓を増して百四十萬圓と爲す七月十六日株主總會に於て取締役渡部温氏辭任の補缺選舉を行ひ淺野總一郎氏當選し渡部朔氏、淺野總一郎氏の後を襲て監査役となる九月取締役須藤時一郎、笹瀨元明兩氏辭任に依り二十八日の株主總會に於て之が補缺選舉を行ひ袴田喜四郎、監査役渡邊福三郎兩氏當選し淺野彦兵衛氏、渡邊氏の後を襲ひ監査役と爲り取締役の互選を以て大

橋新太郎氏専務取締役に就く幾もなく支配人笹瀬元明、技術長中川五郎吉兩氏其職を罷め福島甲子三氏支配人に選任し工學士平松末吉、同内藤游兩氏技師となる十月營業規則を改め總務課、工務課、商務課、會計課、經理課の五課及第一、第二、第三の各製造所を置き事務を分掌せしむ十一月深川猿江町の工場成る明治三十二年三月五日株主總會に於て更に資本金七十萬圓を増加す七月從來工務課に附屬したる製作の業務を分離し新に神田錦町三丁目二十二番地に製作所を置き工場を特設して専ら瓦斯器等の製作に従事せしむ此歲十二月第一製造所瓦斯製造工場を増築落成す明治三十三年七月十六日株主總會に於て製造所増設鐵管

延長の爲め資本を倍加し四百二十萬圓と爲し定款を改正し營業の目的を瓦斯製造供給、副生物精製販賣、瓦斯器械製作販賣及び前項の目的を達する附帶の業務の四項としたり十月第二製造所へ容量十二萬立方呎の瓦斯貯蓄器を増設し明治三十四年六月深川本村町へ副生物精製所を設置しコールタール蒸溜及硫酸アンモニヤ製造の事業を開始す此事たる本邦に在りては創始の事業に屬し其結果猶ベソゾール、ナフサ、ナフサリン、クレオソート、ピッチ、輕油、クレシン等の各種を製出するに至る五月一日技師平松末吉氏技師長となる明治三十五年四月第二製造所へ五十萬立方呎の瓦斯貯蓄器を増設し十月第二製造所内に於て水性瓦斯

の製造を開始す此歲十二月一日取締役大橋新太郎氏専務取締役を辭し取締役渡邊福三郎氏之に代る明治三十六年七月十六日の株主總會に於て取締役一名増員を決議し工學博士高松豐吉氏當選し互選を以て常務取締役と爲る明治三十七年一月十九日株主總會に於て資本金を倍加して八百四十萬圓と爲し業務擴張を遂行するとを議決し監査役改選に西園寺公成、渡部朔兩氏重任し渡邊治右衛門氏新任し渡邊氏は幾もなく辭任したり三月九日第三製造所へ容量六十萬立方呎の瓦斯貯蓄器増設を出願し四月五日許可を得て現に工事に着手しつゝあり七月十九日株主總會に於て監査役渡邊氏の補缺選舉を行ひ小林藤右衛門氏當

選す十一月七日監査役西園寺公成氏死去す明治三十八年一月十九日株主總會に於て監査役を改選し渡部朔、小林藤右衛門兩氏重任し伊藤幹一氏新任す六月十二日第三製造所へ一晝夜六十萬立方呎製造の石炭瓦斯竈二區附屬機械及び建物の増設を出願す同月二十六日職制を改正して本會社の業務を總務、營業、工務の三部に分ち總務部に庶務課、調査課の二課を置き營業部に購買課、販賣課、集金課、會計課、倉庫課、裝置課の六課を置き工務部に工事課、第一製造所、第二製造所、第三製造所、副生物精製所、器具製作所の一課五所を置き以て大に業務を擴張す是實に本會社創立以來現時に至る事業沿革の概要なり

回顧すれば瓦斯事業が明治十八年府廳の羈絆を離れて私設會社の手に歸してより茲に二十年社會は物質の進歩を致し世人は文明の利器を用ふるに汲々とし本會社の事業は頻年長足の進歩を爲し其底止するところを知らず點火料に就て之を觀るも瓦斯局創設時代に當り一千立方呎三圓七十五錢の割合を以て供給し十四年に至り三圓に直下し會社と爲るに及び之が普及を謀る爲め更に順次直下を講じ明治二十二年九月二圓に減じ三十一年十一月に至り石炭の價格暴騰せし爲め二圓四十錢に直上げしたりと雖も爾來石炭の價益々騰貴し殊に昨年日露開戦以來は未曾有の高度に達したるに拘わらず依然一定の點火料を維持

して殆ど石炭代價と反比例の觀を呈したるものは主として需用の著しく増加せし爲め其平衡を得しに起因すと雖も抑も亦民業經營の結果たらずんばあらず蓋し本會社は既往に於て炭價の騰貴に際し一定の點火料を維持したるを以て満足せず今後銳意其需用の普及を圖り將來に於ては炭價益々騰貴するに拘わらず點火料は漸を以て之を低減せんことを期す今試に明治三十八年上半年期間に於ける本會社事業の現況を示せば瓦斯産出高三億五百二十二萬三百立方呎一日の平均高百六十七萬七千六百七十七立方呎を算しコークの産出高三千七百七十七萬二千八百五十三斤タールの産出高八千二百八十八石一斗九升九合鐵管の

延長三百六十五哩餘に及び線路の廣袤市内十五區、新宿、品川、千住、板橋、駒場、瀧野川、向島等の各郡村に亘り街燈千八百基、燈火口數十一萬個、燃料口數一萬五千個、機關六百九十七基、馬力三千八百七十引用需用者の數三萬戸に垂んとす之を創立の當時に比すれば實に非常の進歩なりと謂はざるべからず是瓦斯は其需用の範圍極めて廣く近時白熱瓦斯燈の他の燈火に比して最も經濟なること漸く世人に認識せられたる爲め燈火用として大に其需用を増したるに止まらず他の燃料に比して使用輕便なるが爲め機關動力用及炊事用として需用せらるゝもの比來俄かに其多きを加へたるに因らずんばあらず看來れば本會社事業の前途測

るべからざるものあらんとす爰に二十年間に於ける事業の統計を摘要し卷尾に附して以て参照と爲す

明年三十八年十月

自明治十八年十月
至同三十八年六月

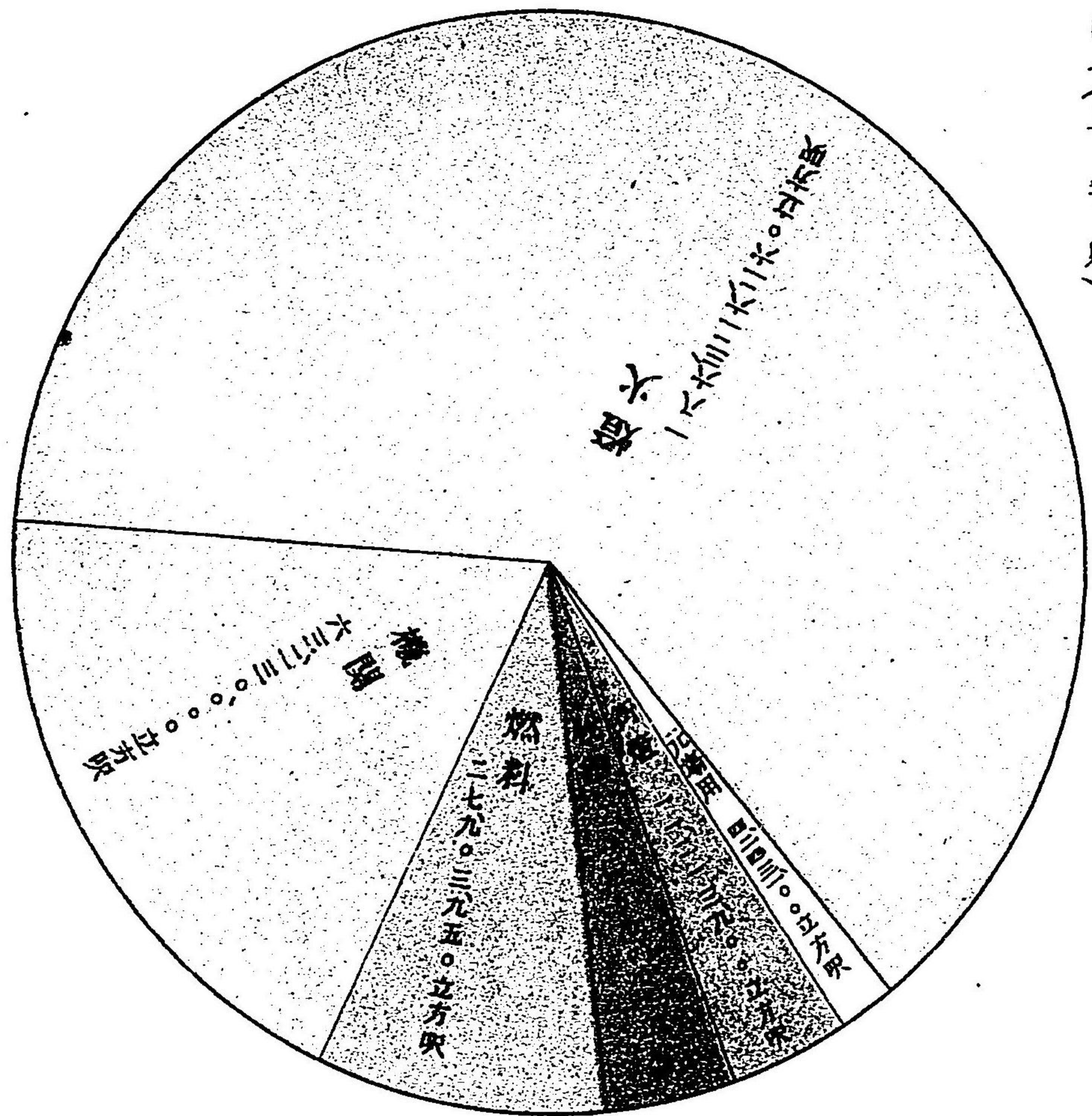
東京瓦斯株式會社事業成績一覽表

年次	事項	資本金		諸積立金		利益分配		瓦斯產出高		產出高		產出高	
		至十二月	至十二月	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
明治十八年	至十二月	二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇	三,三五五	七,四〇四	一〇	一〇	六,五三七	一〇,〇八八	一〇,〇八八	一三〇,三五〇	一三〇,三五〇	一三〇,三五〇
同十九年	上半期	二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇	七,四〇四	七,四〇四	一〇	一〇	一〇,三二一	一〇,三二一	一〇,三二一	一六〇,三五四	一六〇,三五四	一六〇,三五四
	下半期	二七〇,〇〇〇	二七〇,〇〇〇	一,一六七	一,一六七	一〇	一〇	九,八〇六	九,八〇六	九,八〇六	一五〇,二八〇	一五〇,二八〇	一五〇,二八〇
同二十年	上半期	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	一六,二八一	一六,二八一	一〇	一〇	一一,四四三	一一,四四三	一一,四四三	一八〇,二八〇	一八〇,二八〇	一八〇,二八〇
	下半期	三三〇,〇〇〇	三三〇,〇〇〇	二〇,六七八	二〇,六七八	一〇	一〇	一一,二四二	一一,二四二	一一,二四二	一七五,八九一	一七五,八九一	一七五,八九一
同二十一年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	二五,六一一	二五,六一一	一〇	一〇	一二,四四三	一二,四四三	一二,四四三	一九〇,三五四	一九〇,三五四	一九〇,三五四
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	三〇,〇〇九	三〇,〇〇九	一〇	一〇	一一,四三六	一一,四三六	一一,四三六	一七二,一八八	一七二,一八八	一七二,一八八
同二十二年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	三四,一八七	三四,一八七	一〇	一〇	一一,六六七	一一,六六七	一一,六六七	一九四,六一〇	一九四,六一〇	一九四,六一〇
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	三八,三〇五	三八,三〇五	九	九	一四,六〇五	一四,六〇五	一四,六〇五	二〇三,〇九二	二〇三,〇九二	二〇三,〇九二
同二十三年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	四二,九四〇	四二,九四〇	九	九	一八,三〇〇	一八,三〇〇	一八,三〇〇	二二九,九六三	二二九,九六三	二二九,九六三
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	四七,四三九	四七,四三九	八	八	一八,七八五	一八,七八五	一八,七八五	三,四三三	三,四三三	三,四三三
同二十四年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	五二,二三四	五二,二三四	八	八	一九,三三七	一九,三三七	一九,三三七	三,三三三	三,三三三	三,三三三
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	五六,九六三	五六,九六三	八	八	一九,五三七	一九,五三七	一九,五三七	三,五五二	三,五五二	三,五五二
同二十五年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	六一,八九〇	六一,八九〇	八	八	二〇,一九二	二〇,一九二	二〇,一九二	三,五〇三	三,五〇三	三,五〇三
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	六六,九六四	六六,九六四	八	八	二二,二八七	二二,二八七	二二,二八七	三,四一八	三,四一八	三,四一八
同二十六年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	七二,五八五	七二,五八五	一〇	一〇	二二,八七一	二二,八七一	二二,八七一	三,六三四	三,六三四	三,六三四
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	七八,四〇八	七八,四〇八	一〇	一〇	二三,三五六	二三,三五六	二三,三五六	三,六六八	三,六六八	三,六六八
同二十七年	上半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	八四,九四五	八四,九四五	一四	一四	二六,七三四	二六,七三四	二六,七三四	四,二四二	四,二四二	四,二四二
	下半期	三五〇,〇〇〇	三五〇,〇〇〇	九一,四八五	九一,四八五	一四	一四	三〇,〇一五	三〇,〇一五	三〇,〇一五	四,八四〇	四,八四〇	四,八四〇
同二十八年	上半期	三五五,〇〇〇	三五五,〇〇〇	九八,五六一	九八,五六一	一四	一四	三一,八九〇	三一,八九〇	三一,八九〇	五,二五六	五,二五六	五,二五六
	下半期	三五五,〇〇〇	三五五,〇〇〇	一〇五,八一一	一〇五,八一一	一四	一四	三四,六七三	三四,六七三	三四,六七三	五,九八一	五,九八一	五,九八一
同二十九年	上半期	五五五,〇〇〇	五五五,〇〇〇	一〇三,九九〇	一〇三,九九〇	一五	一五	四一,六四四	四一,六四四	四一,六四四	七,五六六	七,五六六	七,五六六
	下半期	五五五,〇〇〇	五五五,〇〇〇	一一三,八七四	一一三,八七四	一六	一六	四八,五五一	四八,五五一	四八,五五一	七,九八三	七,九八三	七,九八三
同三十年	上半期	一,〇五〇,〇〇〇	一,〇五〇,〇〇〇	一二八,八九〇	一二八,八九〇	一六	一六	六二,〇九七	六二,〇九七	六二,〇九七	九,六七九	九,六七九	九,六七九
	下半期	一,〇五〇,〇〇〇	一,〇五〇,〇〇〇	一四四,〇〇三	一四四,〇〇三	一六	一六	六五,六七七	六五,六七七	六五,六七七	一〇,三三五	一〇,三三五	一〇,三三五
同三十一年	上半期	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	一五九,一三三	一五九,一三三	一七	一七	六二,八〇六	六二,八〇六	六二,八〇六	一一,六三八	一一,六三八	一一,六三八
	下半期	一,四〇〇,〇〇〇	一,四〇〇,〇〇〇	一五六,一八三	一五六,一八三	一七	一七	七五,二二三	七五,二二三	七五,二二三	一三,五三一	一三,五三一	一三,五三一

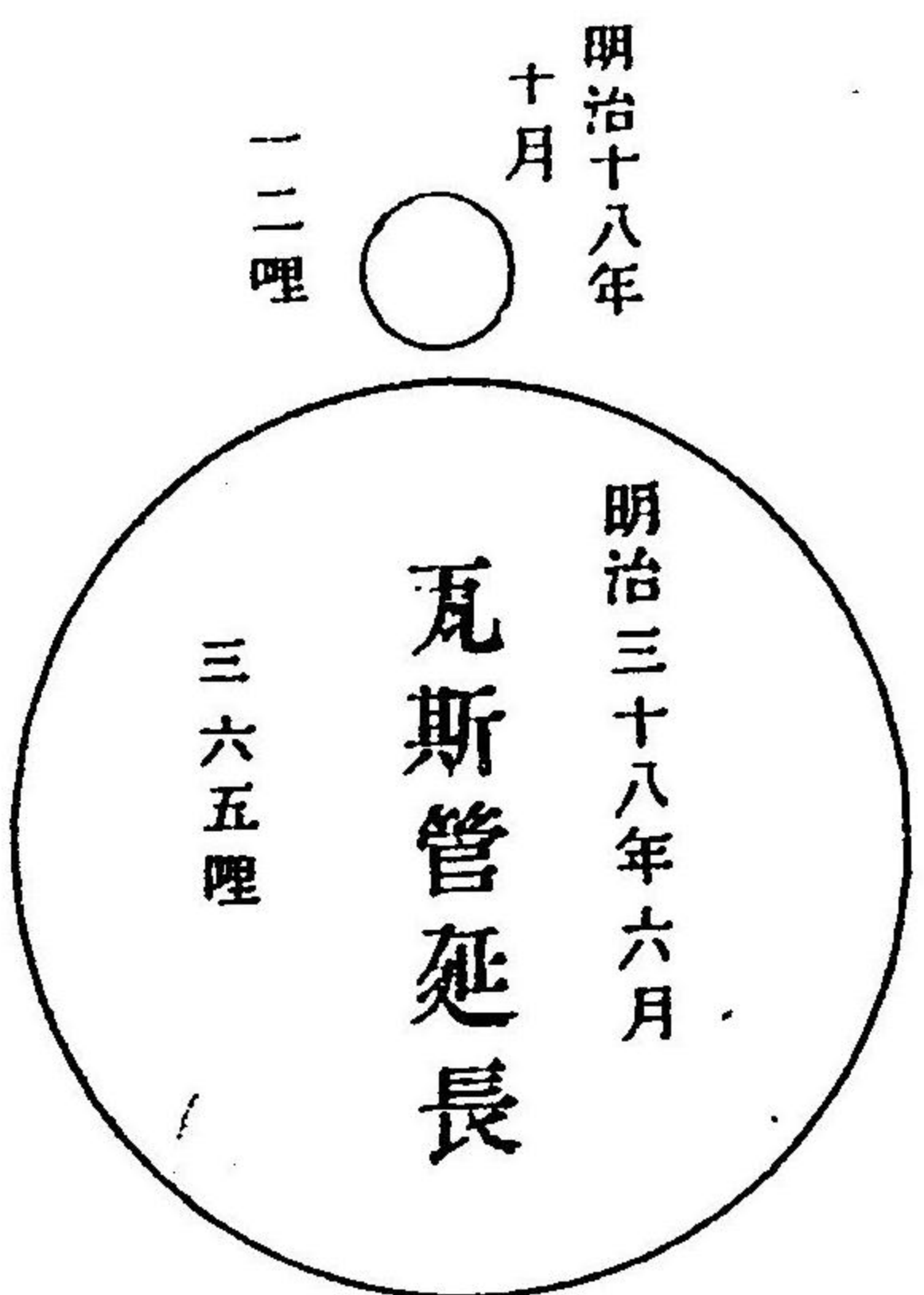
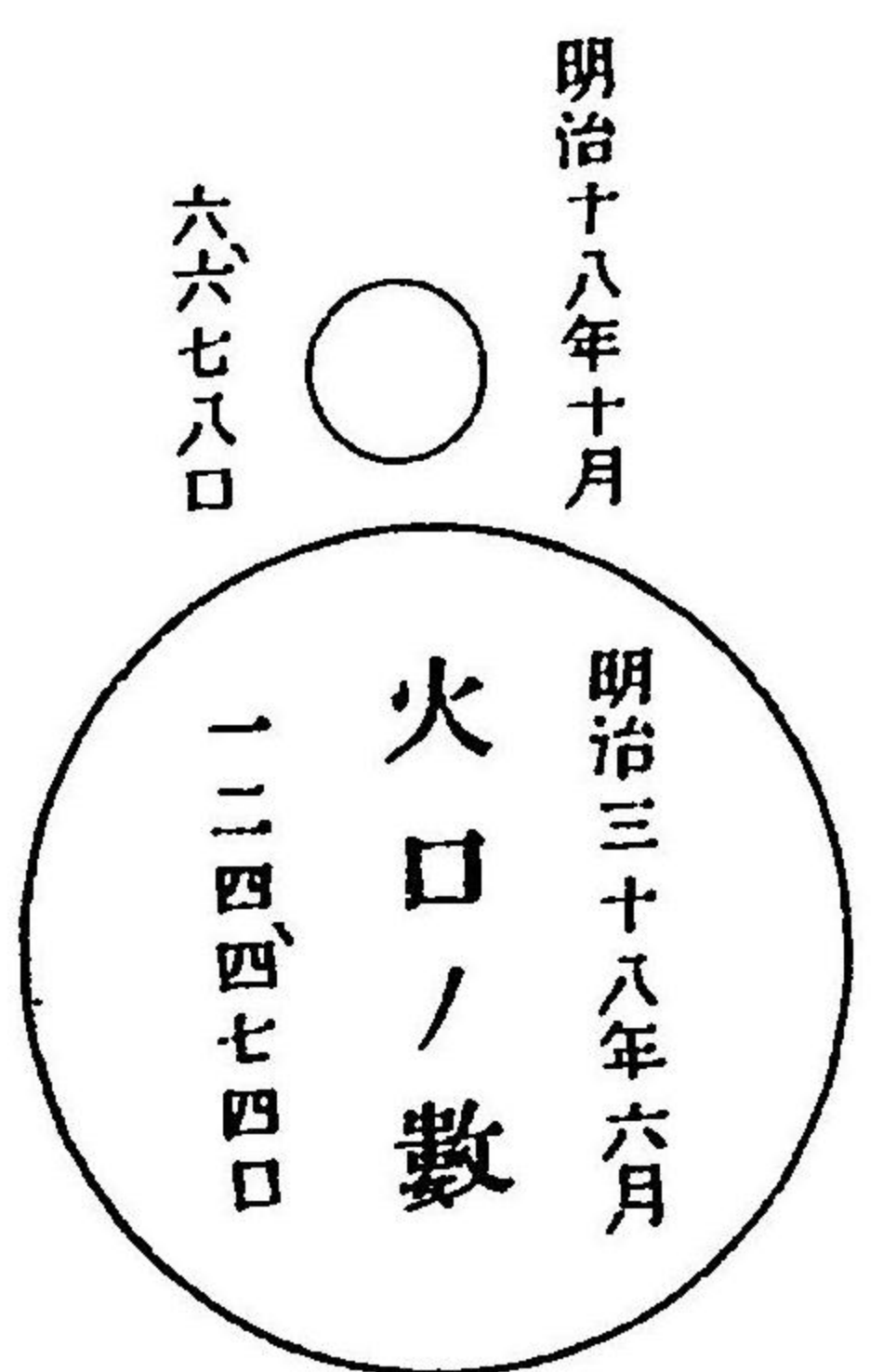
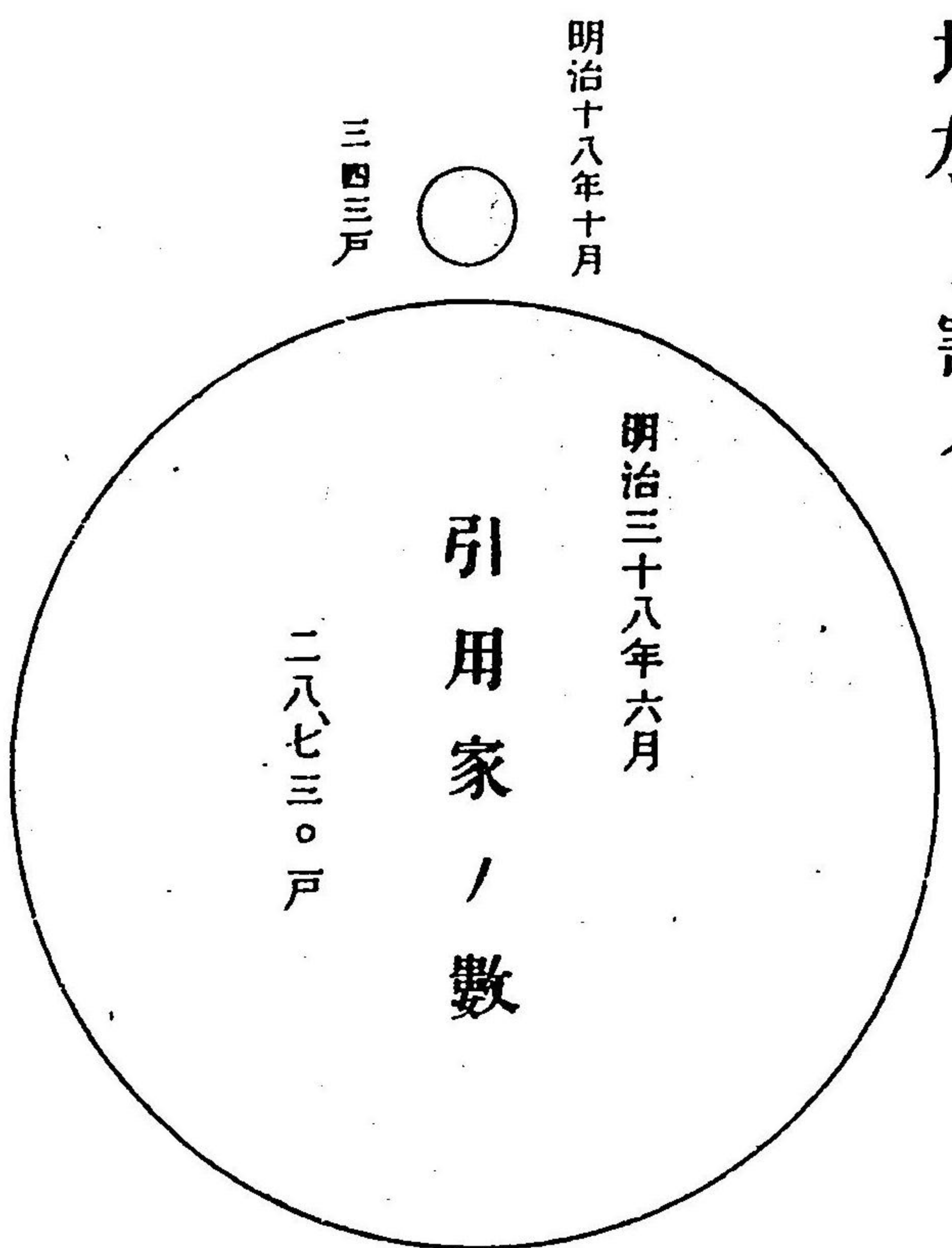
自明治十八年六月至同三十八年十月 東京瓦斯株式會社事業成績一覽表

年次	事項	資本金	諸積立金	利益配	瓦斯產出高	產出高	產出高
明治十八年	至十二月	270,000	3,355	1.0	6,537,100	1,008,140	120,250
同十九年	上半期	270,000	7,404	1.0	10,311,400	1,633,540	228,380
	下半期	350,000	11,267	1.0	9,866,700	1,503,820	207,770
同二十年	上半期	350,000	16,281	1.0	11,843,100	1,876,626	278,450
	下半期	350,000	20,678	1.0	11,442,200	1,758,981	279,955
同二十一年	上半期	350,000	25,611	1.0	12,443,900	1,903,354	327,283
	下半期	350,000	30,009	1.0	11,442,836	1,771,188	282,430
同二十二年	上半期	350,000	34,187	1.0	11,687,300	1,946,109	320,208
	下半期	350,000	38,305	1.0	14,605,400	2,309,553	338,900
同二十三年	上半期	350,000	42,940	1.0	18,330,000	2,329,963	503,540
	下半期	350,000	47,439	1.0	18,785,500	2,413,176	514,380
同二十四年	上半期	350,000	52,234	1.0	19,337,400	2,333,788	618,440
	下半期	350,000	56,963	1.0	19,537,100	2,355,263	648,980
同二十五年	上半期	350,000	61,890	1.0	20,191,200	2,353,100	668,980
	下半期	350,000	66,966	1.0	21,287,000	2,418,570	633,060
同二十六年	上半期	350,000	72,585	1.0	21,871,600	2,634,190	702,230
	下半期	350,000	78,408	1.0	22,352,670	2,668,300	739,350
同二十七年	上半期	350,000	84,945	1.0	22,734,250	2,822,920	796,910
	下半期	350,000	91,485	1.0	23,015,510	2,840,050	838,610
同二十八年	上半期	350,000	98,561	1.0	23,850,700	2,961,365	881,365
	下半期	350,000	105,811	1.0	24,667,330	3,031,990	921,900
同二十九年	上半期	350,000	113,990	1.0	24,677,700	3,035,000	969,780
	下半期	350,000	122,876	1.0	25,511,550	3,143,770	1,011,600
同三十年	上半期	350,000	128,903	1.0	26,277,700	3,135,000	1,076,979
	下半期	350,000	135,133	1.0	26,806,900	3,163,310	1,115,648
同三十一年	上半期	350,000	140,000	1.0	27,512,300	3,152,180	1,189,239
	下半期	350,000	146,183	1.0	28,294,900	3,231,677	1,244,950
同三十二年	上半期	350,000	152,700	1.0	28,949,900	3,261,688	1,291,950
	下半期	350,000	159,500	1.0	29,536,100	3,338,156	1,354,448
同三十三年	上半期	350,000	167,000	1.0	30,294,900	3,350,788	1,418,088
	下半期	350,000	174,000	1.0	31,109,300	3,435,674	1,497,832
同三十四年	上半期	350,000	183,000	1.0	31,930,700	3,518,344	1,581,832
	下半期	350,000	192,000	1.0	32,784,400	3,609,716	1,676,832
同三十五年	上半期	350,000	197,570	1.0	33,570,300	3,694,655	1,769,957
	下半期	350,000	204,000	1.0	34,439,700	3,784,239	1,877,240
同三十六年	上半期	350,000	211,311	1.0	35,311,100	3,874,174	1,976,931
	下半期	350,000	219,000	1.0	36,200,000	3,966,747	2,082,787
同三十七年	上半期	350,000	226,000	1.0	37,100,000	4,062,365	2,195,794
	下半期	350,000	233,000	1.0	38,019,800	4,161,133	2,318,199
同三十八年	上半期	350,000	240,000	1.0	39,000,000	4,263,853	2,445,794
	下半期	350,000	247,000	1.0	40,000,000	4,371,153	2,588,199

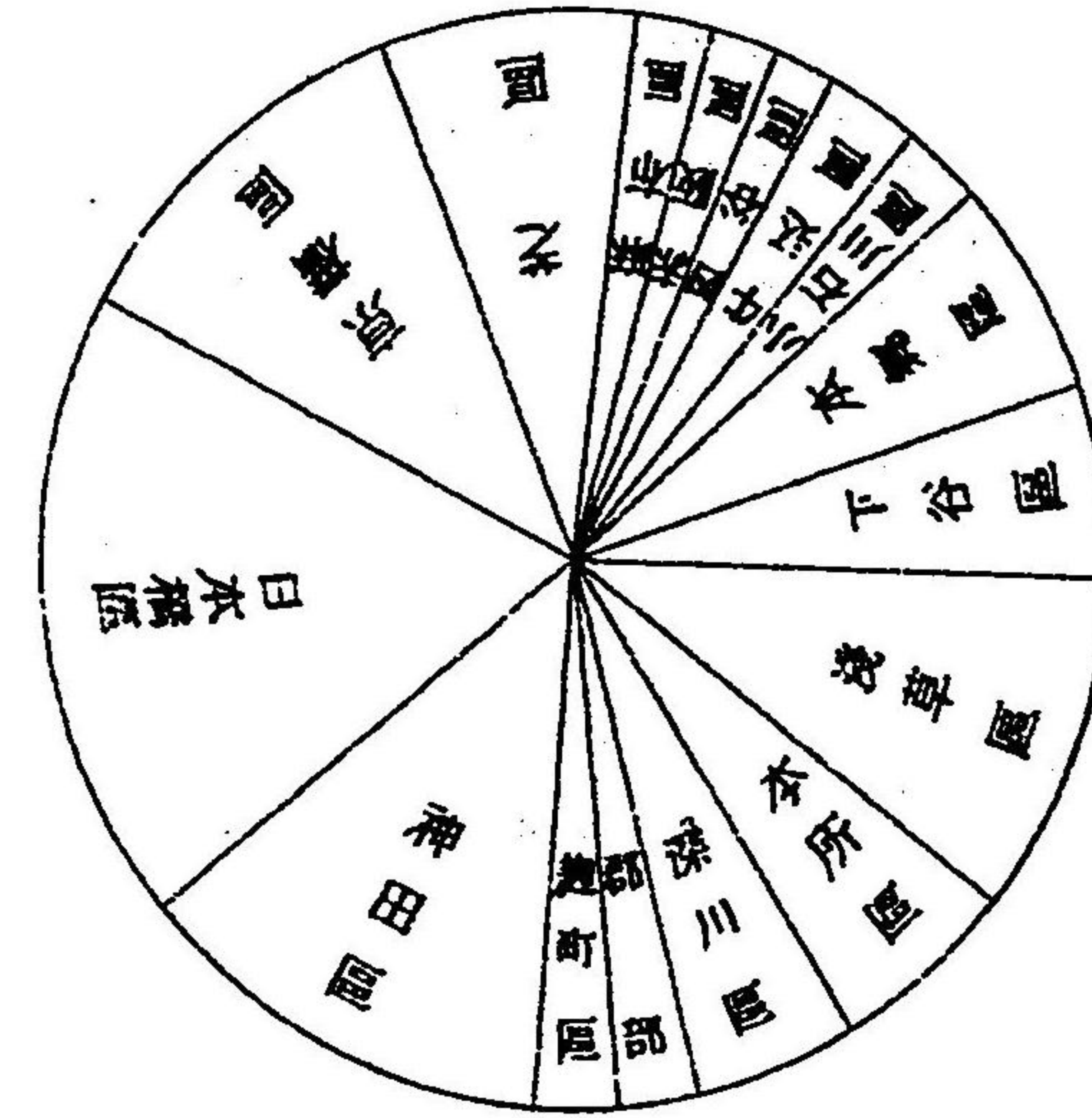
瓦斯需用高一覽
 (明治三十八年
 上半期)



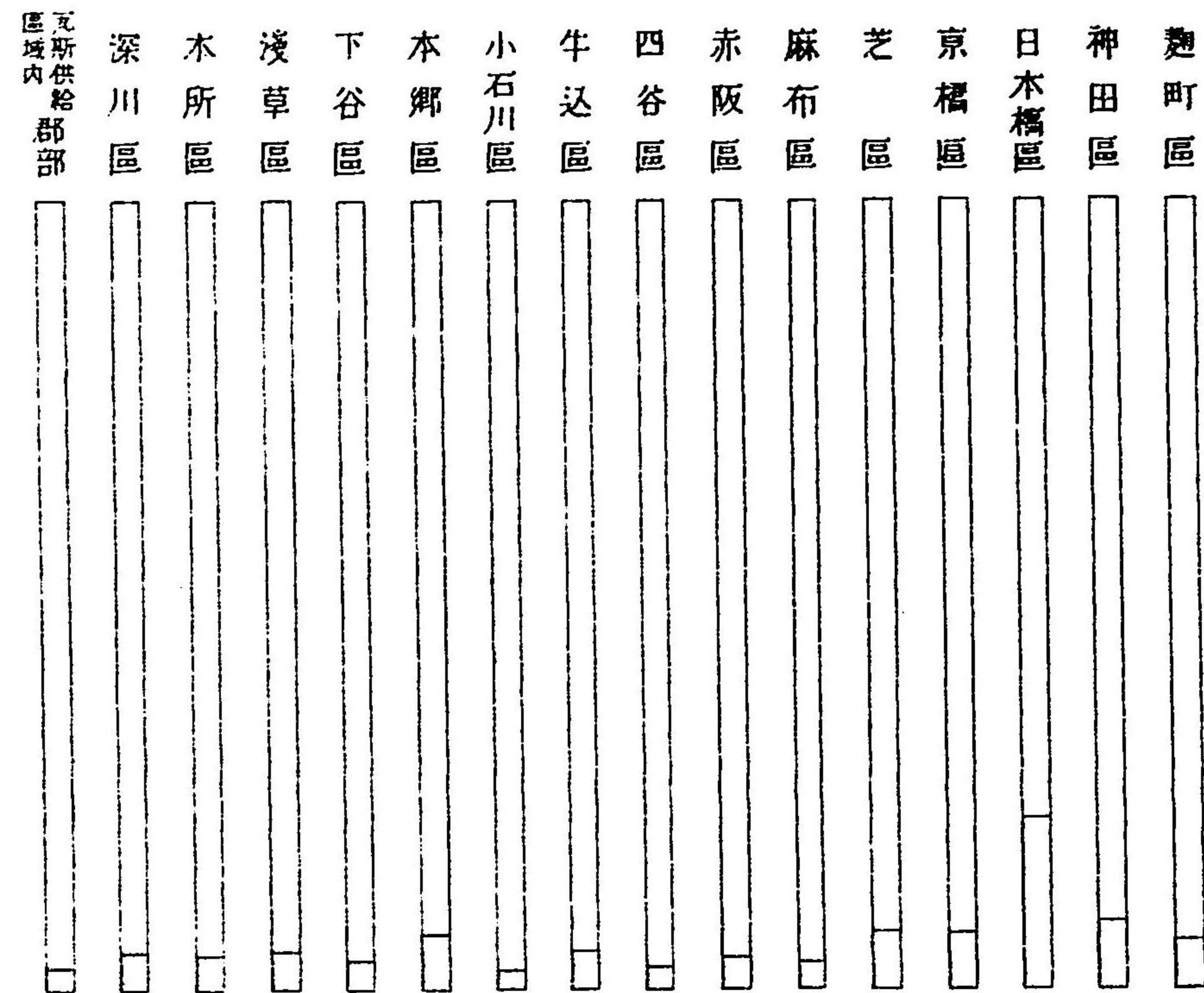
瓦斯引用家等増加ノ割合



瓦斯引家用數ノ比較



瓦斯引家用數ノ全戸ニ對スル割合



○ 瓦スヲ引用スル者
○ 瓦スヲ引用セザル者

本社創立 明治十八年十月

營業年限 九十九箇年

瓦斯供給區域 東京全市及附近町村

瓦斯鐵管敷設延長 三百六十五哩餘

資本金 八百四拾萬圓

同拂込高 五百貳拾五萬圓

積立金 四拾五萬五千圓

明治三十八年
下半年繰越金 七萬五千八百圓餘

(電話) 一三番
五四八番
一六八五番
二六八三番
東京市神田區錦町三丁目二十三番地
東京瓦斯株式會社

(電話) 一、二五〇番
東京市芝區濱崎町三番地
全 第一製造所

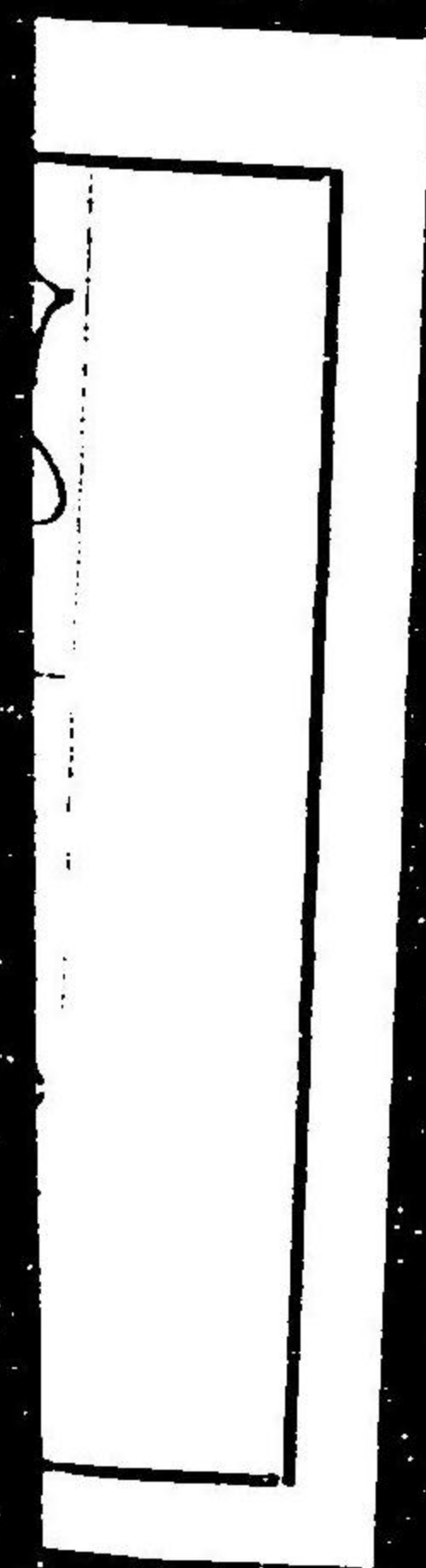
(電話) 七〇一番
東京府北豐島郡南千住町大字地方橋場千四百五十一番地
全 第二製造所

(電話) 一、三九〇番
東京市深川區猿江町九十二番地
全 第三製造所

(電話) 五七八番
東京市深川區本村町四十番地
全 副生物精製所

(電話) 六六四番
本局) 二七〇八番
東京市神田區錦町三丁目二十二番地
全 器具製作所

79
148



203255-000-2

79-648

東京瓦斯株式会社事業沿革の概要

東京瓦斯

[M38?]

EDK-0165

